

雨よけ無加温栽培におけるパプリカの 栽植様式、かん水、着果管理等栽培管理方法

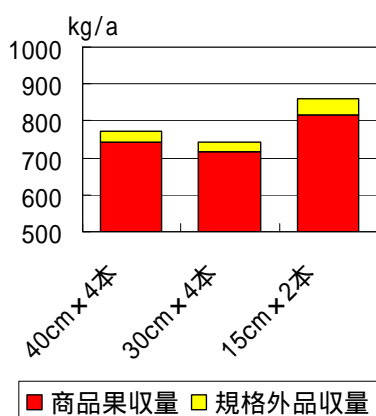
【1 成果の概要】

パプリカ雨よけ無加温栽培について、本県の気象および栽培施設条件に適した栽培管理方法を取りまとめました。

【2 栽培管理方法】

- (1) 栽植様式は、定植や整枝等に要する作業時間が少ない株間40cmの4本仕立てとします。株間15cmの2本仕立ての場合、商品果収量がやや優れますが、必要な株数が多いことから、販売額から種苗費を差し引いた金額はほぼ同等になります(図1、表1)。
- (2) かん水は、土壌水分pF1.7~2.0程度を目安に管理を行います。ただし、盛夏期に高温が続くような場合は、かん水量を増やすなど適宜調整を行う必要があります。
- (3) 収穫は、主枝のみから行います。
- (4) 側枝は、2節を残して摘心します。

表1 各栽植様式における収支比較(aあたり)



栽植様式	株数 (株)	種苗費 (円)	販売額 (円)	販売額- 種苗費(円)	定植作業 (分)	管理作業 (時間)
40cm×4本	156	24,336	296,400	272,064	156	52
30cm×4本	208	32,448	287,000	254,552	208	70
15cm×2本	417	65,052	327,000	261,948	417	70

注)・種苗費は、156円/株(自根苗)とした。
 ・販売額は、図1の収量に単価400円/kgを乗じて算出した。
 ・定植時間は、苗運搬、穴開け、粒剤施用、定植、仮支柱設置を想定し、1分/株として算出した。
 ・管理作業時間は、誘引ひも設置、側枝摘心、摘花、誘引、主枝摘心の年間の実測値から、5分/枝として算出した。

図1 栽植様式が収量に与える影響

【3 この技術を上手に使うには】

- (1) 定植は4月上~中旬に行います。定植後の活着が不良だと、その後の生育に大きく影響しますので、保温管理に留意します。また、無加温栽培の場合、収穫は強い降霜があるまで(11月中旬頃)となります。
- (2) 主に本県で栽培されている「スペシャル」、「フェアウェイ」を始めとした1果重が160~210g程度となる品種で適用できます。
- (3) 通常年で700~900kg/a、高温年で600kg/a程度の商品果収量を得ることが可能です。また、商品果率も90%以上と高く、高規格品の生産が可能です。